

- ・ジュースを買うときは果汁100%にする
- ・甘いものを食べた後はお茶・水を飲ませる
- ・チョコや飴・ガムを与えない、甘いものを控える
- ・飴よりガムを与えガムは味がなくなってもかませる
- ・寝る前は食べ物を与えない、おやつ時間を決める
- ・仕上げ磨きを必ずする ・フロスを使う ・定期健診を受ける
- ・フッ素塗布やフッ素入り歯磨きの使用
- ・着色が気になるので、月2回ガーゼでこする

6 「みんなの歯ぴかぴか運動」が始まってから何か変わったことがありましたか。

- ① 子供が歯磨きを進んでするようになった(13名複数回答有り)
- ② 子供が口の中を良く見るようになった(8名複数回答有り)
- ③ 家族が仕上げ磨きをするようになった(4名複数回答有り)
- ④ 家族で歯についての話しをした(4名複数回答有り)
- ⑤ その他何かありましたらご自由にお書きください
 - ・染め出しをやってもらって子供の磨き残しがわかったため、その部分を注意して磨くようになった。
 - ・歯医者さんへの抵抗が少なくなってきたので、治療に結び付けたい。
 - ・以前よりも「しっかり磨こう」という意識が親子ともども強くなった。児童館を修了してもこの気持ちを持ち続けたい。
 - ・歯磨きだけとっていたらフッ素塗布という医療行為を児童館という「場」ですということと、フッ素塗布を断ったために、子供が差別的対応を受けているのではないかと説明会があるまで不安で仕方なかった。

回答無(5名)

7 「みんなの歯ぴかぴか運動」は終了しましたが、次年度も実施したほうがよいと思いますか。

- ① ぜひ実施してほしい(8名)
- ② 実施してほしい(15名、歯磨きだけなら1名)
- ③ どちらでも良い(7名)
- ④ 実施しなくても良い(ゼロ名)

ご協力ありがとうございました。ご記入後は3月19日(月)までに、児童館にご提出願います

なお、フッ素に関する資料がほしい方は児童館の先生にお申し出ください。後日児童館を通じてお届けいたします。(田老町・宮古保健所)

参考資料2

茨城県日立保健所

歯科保健ボランティア養成研修会

桐原嘉子

平成14年2月9日

第二次茨城県歯科保健計画の策定

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の期間 平成113年度から平成22年度 (10年間)
- 3 計画の特徴
 - ①中間目標値の設定 6424
 - ②歯科専門職以外の役割を明確化
 - 栄養士
 - 食生活改善推進員
 - 歯科保健ボランティア
 - ③歯科保健水準目標（結果指標）及びリスク低減目標（意識・行動）を定めた
 - ④総合的かつ体系的な生涯を通じた歯科保健の推進を目指すため、職域保健の役割を明確に位置付けた
- 4 関係機関・団体の役割と連携
 - ・現状の要約
 - ・(要点を箇条書きで表示し、口頭で説明を加える)

経緯

 - ・これまでの経緯に関する情報
 - ・(状況の変化によって変わってしまった前提条件を列挙する)

可能な選択肢

 - ・戦略案の列挙
 - ・各戦略案の長所と短所
 - ・各戦略案の費用分析

結 論

 - ・取るべき戦略案の決定
 - ・戦略案を実行したときの事態の推移とその結果
 - ・次になすべきこと
 - ・なすべき項目の明示

歯科保健ボランティア養成研修事業実施要項

1 目的

歯を失う原因の一つである歯周病については、喫煙、歯間清掃器具使用の有無等が影響することが指摘されており、地域における歯周疾患対策の推進のため、歯科保健ボランティアリーグを養成し、生涯を通じた歯科保健の推進を図ることを目的とする。

2 実施主体

茨城県（水戸保健所・日立保健所・下館保健所）

3 対象者

市町村長から推薦のあった食生活改善推進員等、概ね300人を対象とする。

4 内容

(1) ブロック研修会

地域の健康づくりリーグである食生活改善推進員等を対象に歯周疾患予防のための教育、歯間ブラシの使用法、ブラッシング方法、健康な歯ぐきの見分け方等の実践的な研修を県内3ブロックで行う。

研修会内容案

履修項目	内容	時間	講師（案）
国・県の歯科保健について	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康日本21」における歯科保健の方向性について ・歯科保健の現状と課題について 	1時間	保健所歯科保健担当者
歯科疾患とその予防について	<ul style="list-style-type: none"> ・むし歯及び歯周疾患の原因、進行等について ・むし歯及び歯周疾患の予防について 	1時間	歯科医師
歯科保健習慣の実際について	<ul style="list-style-type: none"> ・歯間ブラシ、デンタルフロスの使用方法について ・ブラッシング方法 ・健康な歯ぐきの見分け方 	1・5時間	歯科衛生士
生活習慣と歯科保健	<ul style="list-style-type: none"> ・食べることと歯の健康 	1時間	栄養士
地域における実践方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における具体的な活動方法について 	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県食生活改善推進団体連絡協議会役員 ・ボランティア協会等
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性に応じた内容等 		

(2) 事後研修会

ブロック研修会修了者全員を対象とし、歯科保健に関する専門的研修を次の内容で行う。

- ① 専門的歯科保健の講義
- ② 歯科保健ボランティアの活動実践報告

5 ボランティアリーダー実地活動内容（案）

- (1) 市町村における歯科保健事業等の受診勧奨
- (2) 歯科保健事業等への参画
- (3) 地域での歯科保健に関する情報提供
- (4) 街頭キャンペーンへの参加
- (5) その他

6 事業計画

事業計画については、様式1「歯科保健ボランティア研修会事業実施計画書」により別に定める日までに保健予防課長へ提出するものとする。

）修了証の交付

保健所長は歯科保健ボランティア研修会修了者に対して別紙様式3による修了証を交付するものとする。

8 事業報告

事業報告については、様式2「歯科保健ボランティア研修会事業実施報告書」により別に定める日までに保健予防課長へ報告するものとする。

9 歯科保健ボランティア活動報告

歯科保健ボランティアは活動報告を様式4により毎年4月30日までに市町村を通じ管轄保健所に報告するものとする。



歯科保健ボランティア養成研修会のご案内

歯科保健の場でボランティアをしてみませんか。

茨城県では、8020・6424（ハチマルニマル・ロクヨンニヨンと読み80歳で20本・64歳で24本自分の歯を残そう）を達成するために歯科保健ボランティアリーダーを養成しています。

歯に関心がある

歯のことをよく勉強して、社会に還元してみてもよいかな
地域において、歯周病対策推進の要となって活躍したい
等々・・・

下記のとおり研修会を開催しますので、たくさんのご応募をお待ちしています。

記

- 1 受講対象者 一般住民（年齢18歳以上、男女不問）
特に、小・中学校の保護者は大歓迎です。
また、食生活改善推進員、保健推進員も歓迎します。
- 2 研修内容 別添「日程表」のとおり
- 3 応募方法 電話又はFAX（氏名、住所、電話番号、希望会場を記入）
- 4 申込先 茨城県日立保健所健康増進課
TEL 0294-22-4188
FAX 0294-24-5132
- 5 応募〆切り 平成13年11月30日（金）

問合せ先

茨城県日立保健所健康増進課

歯科保健ボランティア養成研修事業担当

TEL 0294-22-4188

歯科保健ボランティア養成研修会日程表

計 画 内 容																													
	瓜 連 会 場	日 立 会 場																											
日時	平成13年12月6日(木) 午前9時から午後4時まで	平成13年12月14日(金) 午前9時から午後4時まで																											
場所	瓜連町総合センター「ラポール」 〒319-2105 那珂郡瓜連町大字古徳371 TEL029-296-1651	茨城県日立保健所 〒317-0065 日立市助川町2-6-15 TEL0294-22-4188																											
内容	<table border="0"> <tr> <td>受付</td> <td>8:45 ~</td> <td>8:55</td> </tr> <tr> <td>挨拶及びオリエンテーション</td> <td>9:00 ~</td> <td>9:15</td> </tr> <tr> <td>1 第二次茨城県歯科保健計画について 講師 茨城県日立保健所歯科衛生士</td> <td>9:30 ~</td> <td>10:00</td> </tr> <tr> <td>2 地域における歯科保健活動の実際 講師 歯科保健ボランティア</td> <td>10:00 ~</td> <td>10:30</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">(休 憩)</td> </tr> <tr> <td>3 食と歯の健康(試食を含む) 講師 茨城県日立保健所管理栄養士</td> <td>10:30 ~</td> <td>11:30</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">(昼食・休憩)</td> </tr> <tr> <td>4 歯科保健習慣の実際 (1) 歯科疾患の具体的な予防法 ① 歯ブラシの使い方 ② 歯間清掃用具の使い方 (2) 健康な歯肉の見分け方 講師 茨城県歯科衛生士会員</td> <td>12:30 ~</td> <td>13:30</td> </tr> <tr> <td>5 歯科疾患とその予防法 (1) 歯科疾患(むし歯、歯周病)の原因と進行 (2) 歯科疾患の予防について (3) 地域における具体的な活動方法(グループワーク) 講師 国立公衆衛生院疫学部 主任研究官 青山 旬</td> <td>13:30 ~</td> <td>16:00</td> </tr> </table>		受付	8:45 ~	8:55	挨拶及びオリエンテーション	9:00 ~	9:15	1 第二次茨城県歯科保健計画について 講師 茨城県日立保健所歯科衛生士	9:30 ~	10:00	2 地域における歯科保健活動の実際 講師 歯科保健ボランティア	10:00 ~	10:30	(休 憩)			3 食と歯の健康(試食を含む) 講師 茨城県日立保健所管理栄養士	10:30 ~	11:30	(昼食・休憩)			4 歯科保健習慣の実際 (1) 歯科疾患の具体的な予防法 ① 歯ブラシの使い方 ② 歯間清掃用具の使い方 (2) 健康な歯肉の見分け方 講師 茨城県歯科衛生士会員	12:30 ~	13:30	5 歯科疾患とその予防法 (1) 歯科疾患(むし歯、歯周病)の原因と進行 (2) 歯科疾患の予防について (3) 地域における具体的な活動方法(グループワーク) 講師 国立公衆衛生院疫学部 主任研究官 青山 旬	13:30 ~	16:00
受付	8:45 ~	8:55																											
挨拶及びオリエンテーション	9:00 ~	9:15																											
1 第二次茨城県歯科保健計画について 講師 茨城県日立保健所歯科衛生士	9:30 ~	10:00																											
2 地域における歯科保健活動の実際 講師 歯科保健ボランティア	10:00 ~	10:30																											
(休 憩)																													
3 食と歯の健康(試食を含む) 講師 茨城県日立保健所管理栄養士	10:30 ~	11:30																											
(昼食・休憩)																													
4 歯科保健習慣の実際 (1) 歯科疾患の具体的な予防法 ① 歯ブラシの使い方 ② 歯間清掃用具の使い方 (2) 健康な歯肉の見分け方 講師 茨城県歯科衛生士会員	12:30 ~	13:30																											
5 歯科疾患とその予防法 (1) 歯科疾患(むし歯、歯周病)の原因と進行 (2) 歯科疾患の予防について (3) 地域における具体的な活動方法(グループワーク) 講師 国立公衆衛生院疫学部 主任研究官 青山 旬	13:30 ~	16:00																											

- ※ (1) 希望の会場を受講してください。
 (2) 歯科疾患の具体的な予防方法については、歯ブラシ等の実技を行いますので、歯ブラシ、コップ、タオルをご持参ください。



茨城県

8020明日のいばらき 歯科保健ボランティア 養成研修テキスト

茨城県日立保健所

目 次

1	8020運動をすすめよう	1
2	茨城県の歯科保健の現状と課題	2
	第二次茨城県歯科保健計画	
(1)	計画策定の趣旨	2
(2)	歯科保健施策の体系	3
(3)	歯科保健目標等の設定	5
3	「健康日本21」における歯の健康	9
(1)	歯の喪失の防止	9
(2)	幼児期のむし歯予防	10
(3)	学齢期のむし歯予防	11
(4)	成人期の歯周病予防	12
4	食べることと歯の健康	15
(1)	かみごたえのある食生活	15
(2)	唾液の働きが歯を守る	16
(3)	規則正しい食生活が健康な歯をつくる	17
5	歯科疾患とその予防について	18
(1)	むし歯	18
(2)	成人のむし歯	19
(3)	むし歯の予防	19
(4)	歯周病	20
(5)	歯周病の進行	20
(6)	歯周病の原因	21
(7)	歯周病の予防	21
6	歯科保健習慣	
(1)	歯周病の自己チェック	22
(2)	ブラッシング法	22
(3)	プラークのたまりやすいところ	23
(4)	歯ブラシの選び方と手入れ	24
(5)	歯間清掃補助器具	24

修了証

あなたは 茨城県歯科保健
ボランティア研修を修了したことを
証します

平成 年 月 日

茨城県日立保健所長 大和 慎一

参考資料3

県民運動としての8020の現況と将来

静岡県歯科医師会

会長 大久保満男

1. 静岡県での8020運動の経過

静岡県歯科医師会は平成5年に8020の活動を開始したが、当初は型通りの8020達成者への表彰等の事業が主体であった。

その転換点は、8020運動の意義が、単に歯を残すことではなく、『食べる』ことを通して『生きる力』を獲得することにあるという点に視点を移し始めたことであるが、ただそれを運動に転化することはなかなかできなかった。

ただ、8020の達成が生活習慣と関わるのなら、その生活を変える契機に歯科医師や会の活動が関与するにしても、変える主体は一人一人の住民でありそうであるなら、その接触を「深い場所」(トポス)で捉えない限り、この運動は実を結ばないという、当たり前結論の再確認をし始めた。

2. 8020県民会議の結成

そして平成12年、まず不特定多数の一般県民ではなく、特定の県民と歯科医師会の関係を築くことから始めるしかない、8020推進県民会議という組織を作り、その最初の事業として県民大会を開催した。

県民会議は別添資料のようなメンバーで構成され、県民大会の企画から進行までの全てに、いわば「お客様」としてではなく、歯科医師会の対等のパートナーとして参加していくこととなった。

さらに平成13年の第二回の県民大会には、県民会議の参加団体が、それぞれに抱える問題点を提議しあうシンポジウムを開催し、現在の食の在り方、とりわけそれが子供達に及ぼす影響を看過出来ないことを確認し、そのための行動を起こす必要があることを認識しあった。

これは、今後、子育て支援という形で、地域の様々な団体や人々との広い関わりを築いていく運動にしていかねばならないと考えている。

3. 8020運動推進員の育成

次のステップは、8020の地域での運動基盤を確立するための具体的活動として、推進員を育成することとした。まず平成13年度に、県民会議参加団体を中心によびかけたところ、21市町村から約1000名の応募があり、現在各地で講義と実習が開催中である。

今後、各地区に8020運動の市民・町民・村民会議の結成を目的としているが、しかし地区の歯科医師会があらかじめ推進員の受け皿としての組織を作るのではなく、推進員と歯科医師会が歯科衛生士の共働作業として組織作りから始めていくことになる。

4. 今後の展望

静岡県歯科医師会が作成した8020達成イメージ図にあるように、8020は人々の生活のスタイルに深く結びついている。

したがって、8020の本当の成果は、多くの住民の参加や行動変容が、いつのまにか歯を保ち、人々がいきいきとした生を送ることであり、その時、歯科医師会という存在は、大きな輪の中に埋もれて、誰も気づかない、そんな状況が生まれることではないだろうか。

静岡県8020推進員

8020健康静岡21は、8020運動の推進のために、県下各市町村に8020推進員を置く。

1. 静岡県8020推進員の募集

第一回の募集は、8020健康静岡21推進協議会の構成団体である、『健康作り食生活推進協議会』および『保健委員連絡協議会』に対して実施し、県下21市町村より、992名の応募があった。

次年度以降は、広く県民に呼びかけ募集をしていく。

2. 8020推進員の養成・任命

* 研修会講師の事前研修

今年度は、県下15会場において、養成のための研修会を開催している。

研修会講師は、研修会場に該当する郡市歯科医師会の会員より任命した。

各講師は、事前に県歯で作成した研修会テキストをもとに、講師研修会を開催し、講義内容の確認と調整を行った。

* 研修会のプログラム

研修会は、講師による2時間の講義と、歯科衛生士によるブラッシングの実技指導で構成されている。

* 推進員の任命

研修終了者には、8020推進員証とバッヂを授与し、任命する。

3. 8020推進員の役割

* 市町村における8020運動実践者の拡大（8020の伝道師）

* 8020の里づくりの支援

* 郡市歯科医師会や市町村が実施する歯科保健事業の支援

* 郡市歯科医師会や食関連団体との連携による、市町村8020推進協議会の結成

当面の具体的な活動

1. 8020健康静岡21推進協議会がすすめる活動の参加や支援

* 8020県民大会への参加

* パンフレット等の資料を周囲の住民や所属団体に配布する啓発活動

* 調査・研究への協力

2. 8020の里づくり実施市町村における活動

* 里作りモデル地区の支援を通し、今後の推進員のモデル活動の構築を模索

・8020支援の食の在り方や介護食の普及（う蝕、高齢者対策）

・禁煙対策や歯周病検診普及の支援（歯周病対策）

今後の運動展開

<第一段階>⇒各組織で8020運動の理解を深め実践者を拡大する。

<第二段階>⇒各組織の活動を通して、8020運動の理解と実践者の拡大を地域の一般に広める。

<第三段階>⇒一般地域住民の8020推進員養成を拡大し、新たな地域歯科保健活動の素地を作る。

<第四段階>⇒各市町村に歯科医師会・推進員・関連団体で組織される8020推進協議会を組織化し、地域住民運動としての8020を推進する。

8020健康静岡21推進会議

氏名	所属
塚本 等	(株)静岡新聞社 編集局・紙面審査部副部長
原田 淳一	健康保険組合連合会 静岡連合会・常務理事
田辺 信宏	静岡県議会議員
中村 宗達	静岡県健康福祉部 健康増進室室長
田中 信子	静岡県教育委員会 体育保健課保健給食班長
平野 ますみ	児童文学者
甲賀 雅章	(株)シーアイ・センター 代表取締役
杉山 祐子	静岡県健康づくり 食生活推進協議会会長
近藤 容子	静岡県保健委員 連絡協議会副会長
山下 陽子	静岡県栄養士会会長
今井 須美子	静岡県歯科衛生士会副会長
海野 フミ子	静岡市農協女性部部长
杉山 克明	静岡県農業協同組合中央会 組織農政部長

歯科医師会関係委員

氏名	所属
大久保 満男	静岡県歯科医師会会長
近藤 規恵治	静岡県歯科医師会副会長
飯嶋 理	静岡県歯科医師会専務理事
柳川 忠廣	静岡県歯科医師会理事
竹下 朝也	"
長野 昭博	"
西原 和行	"
鈴木 郁夫	"
大石 えり子	"
前島 教次	"
袴田 良彦	"
櫻井 忠好	"
龍口 基雄	"
黒木 孝	静岡県歯科医師会監事
大城 清孝	浜北市歯科医師会会長 (郡市会長会会長)
太田 昭二	駿東歯科医師会会長 (郡市会長会副会長)
小武海 實	静岡市歯科医師会会長 (郡市会長会副会長)
浅井 治	沼津市歯科医師会会長
松下 悟	島田市歯科医師会監事
原田 雅博	浜松市歯科医師会会長

※ 議長

8020 推進員研修会開催一覧表(開催日順)

希望日	協議会名	会場	参加人数
平成13年11月7日 19:00	川根町健康づくり食生活推進協議会	川根町町民文化会館	32名
平成13年11月12日 9:30	御前崎町健康づくり食生活推進協議会	御前崎町保健センター	40名
平成13年11月14日 14:00～	蒲原町健康づくり食生活推進協議会	蒲原町保健福祉総合センター 白銀すこやかセンター	77名
平成13年11月16日 9時～11時	由比町健康づくり食生活推進協議会	由比町中央公民館	29名
平成13年11月26日 13:00～	藤枝市健康づくり食生活推進協議会	藤枝市保健センター研修室	72名
平成13年12月13日 9:30	岡部町健康づくり食生活推進協議会	岡部町健康福祉センター	54名
平成14年1月9日 13:30	東伊豆町健康づくり食生活推進協議会	東伊豆町保健福祉センター	26名
平成14年1月10日 9時	富士川町健康づくり食生活推進協議会	富士川町保健センター	34名
平成14年1月17日 9:30	富士宮市健康づくり食生活推進協議会	富士宮市保健センター	24名
平成14年1月21日 13:30	静岡市食生活改善推進協議会	静岡市保健所	68名
平成14年1月23日 13:00	伊東市健康づくり食生活推進協議会	伊東市保健福祉センター	40名
平成14年1月23日 14:00	福田町食生活推進協議会	福田町健康福祉会館	77名
平成14年1月24日 9:30	森町健康づくり食生活推進協議会	森町保健福祉センター	40名
平成14年1月30日 13:30	下田市保健委員協議会 下田市健康づくり食生活推進協議会	下田市市民文化会館	100名
平成14年2月1日 午後1時	熱海市健康づくり食生活推進協議会	熱海市中央町いきいきプラザ	20名
平成14年2月7日 13:30	南伊豆町健康づくり食生活推進協議会	南伊豆町中央公民館	30名
平成14年2月19日 9:00	芝川町健康づくり食生活推進協議会	芝川町保健福祉センター	30名
平成14年2月19日 9:30	春野町健康づくり食生活推進協議会	春野町福祉センター	25名
平成14年2月28日 9:30～11:30	島田市健康づくり食生活推進協議会	島田市保健福祉センター	40名
平成14年3月14日 9:00～	大東町健康づくり食生活推進協議会	大東町保健福祉センター	25名
平成14年3月15日 9:30	清水町健康づくり食生活推進協議会	清水町保健センター	35～ 40名



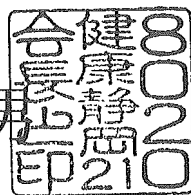
認定証

あなたは8020推進員として所定の研修を修了されたのでここに認定証と推進員バッチを贈呈いたします

今後は8020の達成をめざして地域での保健活動にご活躍下さいますようお願いしております

8020健康静岡21

実行委員長 大久保満男



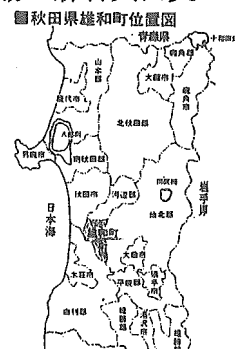
参考資料4 「健康な地域づくり活動」の取り組み

～ 秋 田 県 雄 和 町 ～

秋田県雄和町役場 森合真由美

◆取り組みのきっかけ

雄和町は人口約8,460人、高齢化率26.2%。秋田市の隣に位置した自然の豊かな稲作中心の農山村地域である。住民が主体的に健康な地域づくりに取り組む「地域づくり型保健活動」の研修会（平成8年度）への参画を機会に、平成9年より平尾鳥（ひらおどり）地区（人口約480人）での取り組みをはじめた。



◆目的

子どもからお年寄りまで、誰もがそれぞれ生き生きと生きがいや役割を持って安心して生活できる地域をめざし、健康な地域づくり活動を住民主体のもとに実践し、地域のしくみづくりを創生していくことを目的とした。

◆活動

「高齢になったり、障害をもっても生き生きと安心して生活できる」ための具体的な姿を描き、その実現のための条件や活動について、「平尾鳥健康な地域づくり活動を考える会」において話し合った。話し合いの過程で、「考える会」から、「平尾鳥わくわく協議会」が34人の委員で発足した。学習会、調査、構想書の作成を経て、月1回の定例会が定着してきた。

<具体的活動>

- ・ 講師を招いての学習会 ・ 先進地視察（福島県大越町）
- ・ 地区アンケート調査 ・ 地区産業祭において活動発表
- ・ 「わくわく平尾鳥」会報発行 ・ 他県の組織との交流会
- ・ 構想書作成 ・ 一人暮らし高齢者世帯の除雪作業
- ・ 地区で介護保険学習会 ・ 高齢者教室への協力



◆実践しての効果

<地域・会の変化>

- ・ わくわく協議会では、地域の中での位置づけができてきた。例えば、他の組織をつなぐ役割 他組織に不足するところの支援等の役割を認識するようになった。
- ・ 自分たちの地域の暮らしについて、いろいろな年代層の仲間と共に考える機会となった。
- ・ 活動が地域に見えるようになり、他の団体から協力の依頼がくるようになった。
- ・ 「自分が年をとっても生きがいをもてる地域にしたい」、「平尾鳥の設計図だから、じっくり練ればいい」、「自分たちが同じ目的に向かって話し合ったり、活動する過程が大切」等の発言があり、自分たちの暮らしを真剣に考え、実践しようとする気運が根づいてきた。

<行政の変化>

- ・ 保健活動上では、本取り組みを機会に、他の活動でも住民参画を取り入れた保健活動を展開するようになった。

◆課題（これからめざすこと）

- ・ 地域のなかで、協議会への理解はまちまちであり、地域での位置づけを確立していきたい。
- ・ 行政の後押しがないと滞るような（立ち止まる）段階であることから、組織として自主的運営ができるようになりたい。
- ・ 協議会のメンバーに入りたいと思う人が自由に参加できるような組織にしたい。

20011039

以降 P.35－P.40は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので
下記の資料をご参照ください。

**【「地区診断ができない」を克服する】 実践例 2 住民参加の地区診断
健康な地域づくり活動を住民と共に歩む 森合 真由美**
保健婦雑誌(0047-1844)57 巻 8 号 Page584-589(2001.08)

わくわく平尾島

第二号 平成十四年一月十九日

発行 平尾島わくわく協議会

会長 酒井善昌郎

あたたかいご支援に感謝

高砂会会長 鎌田福司

町では今年度より、身近な地域のふれあいの場として、六十五歳以上の高齢者を対象に「人生いきいき教室」を実施することとなりました。一年間に五カ所、五年間で二十五カ所実施の予定です。今年度は本田・湯野目・繁・萱ヶ沢・平尾島が、それぞれ独自の内容で計画されたようです。平尾島では、藤細工を計画し二回実施いたしました。

第一回目は十月二十三日午前九時から十一時三十分まで、秋田テルサの五千鶴氏を講師に、町保健婦を世話役に、平尾島会館で二十三名が参加し実施いたしました。これには、資材の採集と参加者の送迎の確保が課題となり、資材は会員により採集し、送迎はわくわく協議会の援助をいただきました。終わっての反省会では、皆さん思いの外良く出来たことで大変喜んでいただき、次の会についての希望もあり、また作品を地区の文化祭に展示すること

なども話されるほどでした。

二回目は、十一月二十八日に二十一名の参加者で実施いたしました。花生け用の作品でありましたが、二回目として講師も驚くほどの上達ぶりでお互いの作品を批評し合う意義ある教室でありました。さらにこの事業を進めることを皆さん期待されており、関係者のご指導ご支援をいただきながら続けてまいりたいと思います。

また高砂会では、地域の皆様のお役に立ちたいと、日頃の感謝の心をこめてしめ飾りを手作りし、各世帯に配付させていただきました。今後とも、暖かいご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



平成十三・十四年の活動の二歩

毎月の定例会に加え、次のような活動をしました。

五月 「平尾島わくわく構想書」が完成

田植も終わりの頃ようやく完成イラストや題字も平尾島地区の方々の手で、三年がかりで話し合ったもの。夢を抱いて健康な地域づくりへ一歩。

七月 福島地域づくりセミナーに松山稔氏、鎌田一男氏出席

約三百名の参加者の中、平尾島の活動を会を代表して発表してきました。

九月 介護保険サービスの勉強会

社会福祉協議会ケアマネージャー佐藤憲子氏を講師に招いて講話。介護保険への理解が深まりました。

十二月 山形県舟形町職員視察研修会

福島セミナーで松山氏、鎌田氏の話を聞いて、平尾島に関心を持った舟形町役場職員4名が定例会に参加。

十二月 健康福祉政策学会に3名参加

大友与三郎氏、酒井エキキ氏、酒井セツ子氏、森谷保徳氏が参加。新都市さいたま市で開催。平尾島わくわく活動を紹介。どこの地区でも悩みながらの活動ながら、やはり続けていくことが大切と感じた学芸。

一月 高齢者世帯の除雪

雪の晴れ間、わくわくのメンバーが心地よい汗をかきました。皆さんに感謝していただき安堵。

青森県南郷村研修視察交

流予定(サイクリングターミナル)



十三年八月 平尾島バス停待合

所が立派になりました。進藤栄大工さんが資材労力を提供し、竹下博英さん、松山政武さんが協力してくれました。皆さん大事に使いましょ。

セミナーに参加して

鎌田一男

昨年七月七・八日、福島県飯坂温泉で「地域づくり型保健活動研究会サテライトセミナー」が開催され、全国から約二百名余りが参加し、当協議会からは、私と松山稔氏の二人が参加しました。気楽にと思っていました。届いた案内書を見てびっくり。二人に事例発表をと言われていました。取りやめるわけにもいかず、戸惑いながら懸命に資料作りをし研修に臨みました。

不安からか車窓を眺める余裕もなく、会場に到着しました。昼食をとりながら打ち合わせし、食後約一〇分くらいの間に資料に目を通しました。参加者のほとんどが公務員で専門職の方でした。松山氏と発表内容を確認し、これまでの経緯を、言葉飾らずありのまま話すこととしました。

テーマ別分科会「住民参加（参画）って本当にできるの？」で、大越町白山区の方と私の二人が提言者として発表後、質疑応答が行われました。資料を見ながら、数字的データと、何度も挫折しながら今に至った旨を話しました。白山区の方は失敗例が少なく、成功例を強調し堂々と話す姿が印象的

した。質問は、比較的私に多く、松山氏から助け船をもらい答えた状態でした。なぜ質問が集中したのか考えてみると、自分達の地域と何が違うのか真剣に考え取り組もうとしている表れと思われれます。しどろもどろの話でも、聞く側に理解されたことにほっとしました。

分科会終了後直ちに、全体会に入りました。松山氏の発表が始まると、参加者の方々はメモを取り真剣に聞き入っていました。その姿に、松山氏も拍手の嵐に、私も感動と安堵感で体が軽くなった気がしました。懇親会の間でも多くの方から質問を受け、互いに語り合い一日目を終了しました。

研修に参加して感じたことは、
一、素直に相手の話を聞く。また相手に話す。
一、熱意をもって接すると、相手の心に響く
一、ムリ、ムダ、ムラを作らない
「無理だ」という思いを捨てることに負担の気持ちは軽くなる」この思いを長く持ち続けたいと思う。
研修に参加させていただき、皆様から感謝申し上げます。

健康福祉政策学会に参加して

大友与三郎

この度、さいたま市で開かれた標記の学会に、酒井エキさん、酒井セツ子さん、森合保健婦さんと一緒に参加させていただきました。全国から二百人余りの参加がありました。

参加し強く感じたのは、地域づくり型保健活動を展開していくためには、地域の住民と様々な関係機関との協力が欠かせないということです。そして、大切なのは形ではなく、一人一人の心なのだと思います。地域の人の「命」「暮らし」「心」が豊かであってほしいと願う心です。

他の地域の方々と直接お話をさせていただく機会も得ることができました。どの地域も、いろいろな悩みながら一歩一歩前進しているような印象を持ちました。福祉という高齢者や障害のある方々に目が向けられがちですが、これからの時代を担う子どもたちを地域で育てていく視点も大切なのではないかとこの示唆も与えていただきました。新しく生まれ変わった「さいたま市」の気候の暖かさをうらやましく思いますが、雪の降る平尾島に帰ってきました。

た。今後とも、行政はじめ関係各位のご協力を切にお願ひ申し上げます。ご報告にかえさせていただきます。

編集後記

友と暮らして連れ旅に出たのは八月二十一日だった。初秋とはいえず秋田は三〇度近い暑さだ。しかし飛行機に乗って一時間、千歳空港に着くと秋の気配が感じられた。

北海道は本州に比べ島国で、山地も多いが農地の雄大な広さがすばらしい。さすが日本の農林水産を支える重要な地域である。

札幌で車をレンタルし、道央・道東と走る約三日間、名所旧跡を自衛隊北道道ならではの土地それぞれの食の味を堪能。ホテル二泊民宿。河出雅嗣、孫に年輩りに似合わないほどと笑われたが、六十年余りのストレスが解消。身も心も軽くなる。余生を頑張るエネルギーをもらって家族の待つ我が家へ。
人生ある限り
夢を追いかけていよう
(松山稔記)



参考資料5

住民・地域の専門家と共に進めた歯科保健事業の概要（安浦町）

～1855（いい歯ゴーゴー）大作戦～

1、安浦町の概要

広島県の瀬戸内沿岸のほぼ中央に位置。面積 63.53 k²、人口約 13,200 人、年間出生数約 80 人
主産業が、農業・水産業(かき養殖)の町。

2、取り組みのきっかけ

安浦町では、平成10年度より2歳児とその保護者を対象とした親子歯科健診を実施してきたが、他の健康問題に比べ「歯」について住民の関心は低く、特に母親は、子どもの歯は守りたいが、自分自身のことまで考える余裕がないという現状だった。そこで、親子歯科健診時のアンケート結果をもとに、保健婦だけでなく、町歯科医師・在宅歯科衛生士を巻き込んで、事業見直しの検討会が始まった。まず、母親（女性）の歯周病予防をテーマとして取り組み、実態把握のためのアンケート調査をすることになった。

3、取り組みのプロセス

①検討会は「お口の健康づくりを考える会」（以下考える会）へと発展させ、調査結果を検討。

②考える会の構成メンバーは、住民と町・県・大学・管内等の歯科医師や在宅及び医院勤務の歯科衛生士、行政からは助役、保健福祉課職員、NPO法人ウェルビーイング

③考える会で次のことを決定

・30代女性をターゲットとし、健康目標として、30歳代女性の自覚症状のない者の割合18%を2002年9月までに55%にすること

・目標値から、この取り組みを「1855（いい歯ゴーゴー）大作戦」とすること

・改善すべき保健行動を、①歯間ブラシ・フロスを使う ②定期健診を受ける(年1回以上)の2つに絞り、目標値を、①は32%から55% ②は14%から30%にすること

④21名の30代女性へのインタビューを実施し、フロスを使いにくい理由や定期健診に行きにくい理由の確認。

⑤考える会での参加型教育プログラムづくり

・ショートプログラム～歯の大切さや歯周病の知識普及を目的とし、保育所や幼稚園の参観日等で活用。

・ロングプログラム～歯間ブラシ・フロスの使用をすすめるため、技術教育も取り入れ、2歳児の親子歯科健診を3回シリーズとした。

⑥定期健診をすすめるため、専門家（歯科医師・在宅歯科衛生士・保健婦）により、毎月勉強会を実施。

4、実施及び評価

教育プログラムにそって、平成12年度より健康教育を実施しながら、随時プロセス評価を行っている。13年度は、プロセス評価をもとに考える会でプログラムを再検討し、2002年9月へ向けて事業を展開している。

<事業の良かった点>

- ・住民や専門家と共に考えたり政策決定し、共通認識や目標を持つことができた。
- ・住民ニーズにそった事業として、上司に自信を持って説明でき、住民に対しても事業運営できた。

住民自身が知っておくことは？

6. 準備因子

歯周病は年齢だから仕方がないと思っている人 65%
 歯の治療は犠牲を払って行くべきと思っている人 98%
 歯周病関連用語の認知 (数) 85%
 8.0 8.9 1855大作戦認知
 たばこは歯周病に関係していると思っている人 89%
 歯周病は自分の努力で防げている人 96%
 歯周病は定健で予防できている人 99%

行動が持続するために必要なことは？

7. 強化因子
 歯磨き後の爽快感をいつも感じている人 88%
 歯磨き指導を受けたことがある人 96% (フロス使用後)
 歯磨き指導を受けたことがある人 58%
 歯磨き指導を受け良かったと思った人 98%
 歯石除去の体験がある人 100%
 歯石除去を受けて良かったと思った人 80%
 歯石除去を受けて良かったと思った人 86%

行政・歯科医院がすべき受け皿づくりは？

8. 実習因子
 フロスやIDBを使う技術を持っている人 65%
 92%
 歯科医院ではTBIのサービスを提供しているか？
 定期的な歯科医院での歯石除去の受け皿は？
 治療に行く職場の理解や雰囲気があるか？
 町の歯科保健サービスの提供はどうか？

事後(1ヶ月後)
 フロスの使用 1週間 平均
 今後の自信(10段階) 平均

ひよこ歯科健診参加後のフロス使用 88%

3.3日
 6.8

改善するべきライフスタイルは？

4. 保健行動

現状
 歯間ブラシ、フロスを使っている 32% →
 目標値 55%
 6.0日
 5.1日
 評価: 2週間の平均
 実践する自信(10段階) 平均 7.2
 実践できた(10段階) 平均 7.3
 現在定期健診を受けている 14% →
 30%

3. 痼学

30代全体	1回目	3回目	事後(1ヶ月後)	平均
出血	62%	79%	85%	54%
歯が浮く	21%	33%	35%	21%
腫脹	25%	29%	31%	33%
噛めない	26%	29%	38%	29%
しみる	47%	52%	65%	63%
虫歯	31%	31%	31%	31%
平均	2.11	2.21	2.54	2.00
健康上の問題は何か？	17%	4%	4%	17%
自覚症状なし	19%	4%	4%	17%
自覚症状あり	82%	96%	96%	83%

2. QOL

歯が原因で家族に迷惑は？ 11%
 歯が原因で仕事や家事に支障は？ 10%
 歯が原因でよく眠れない？ 10%
 歯が原因でおいしく食事が？ 21%
 現在の困り事 0.6

困りごとあり 41%

いい歯ゴージャ

1855大作戦

自覚症状なし18% ⇒ 55%にしよう!!

黒: 30歳代全体の結果
 青: ひよこ歯科健診参加者結果 (1回目)
 緑: ひよこ歯科健診参加者結果 (2回目)
 赤: ひよこ歯科健診参加者結果 (3回目)
 水色: ひよこ歯科健診参加者結果 (参加1ヶ月後)

対象者数	1回目	2回目	3回目	事後(1ヶ月後)
105人	52	37	26	24